

2018年度教育研究活動報告用紙(様式9(2018))

氏名	文屋 典子	職名	講師	学位	修士(社会学) (関西学院大学 1994 年)
----	-------	----	----	----	-------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
社会福祉学	ソーシャルワーク方法論、子ども家庭支援 ファミリーソーシャルワーク

研 究 課 題
子ども家庭支援における社会構成主義的アプローチの可能性

担 当 授 業 科 目
相談援助の理論と方法Ⅱ (通年) 相談援助実習指導Ⅰ (通年) 相談援助実習指導Ⅱ (通年) 相談援助実習 (通年) 相談援助演習Ⅱ (前期) 基礎実習 (通年) 保育実習指導Ⅰ (通年) 保育実習Ⅰ (通年) 保育実習指導Ⅲ (通年) 保育実習Ⅲ (通年) 保育の表現技術Ⅰ (前期) 家庭支援論 (前期) 専門研究Ⅰ (通年) 専門研究Ⅱ (通年)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 相談援助の理論と方法Ⅱ 】 ミクロ・メゾ・マクロの多角的視点と相互作用の視点を理解し、問題状況を捉える“視点”を学生の中に涵養することに重点をおいた。ソーシャルワークのアプローチについてはその起源となる社会的背景や基盤理論をふまえてそれぞれの特徴を理解することを重視し、詳細な解説に努めた。アセスメントや介入における各アプローチ特有の“視点”を理解し、各事例の状況に応じて、どのアプローチの視点に立ち、どのように問題を捉えて、解決に向けた支援計画を描くことができるかということに重点をおいた。できる限り多くの視聴覚教材や事例を用いることによって、用語の暗記にとどまらず、臨床的感覚を覚えながら理解を深められ、授業を展開した。 学生には毎回の授業でリアクションペーパーに授業内容を要約して提出することを課し、記述内容から学生の理解度の把握と授業内容や進め方の見直しに役立てた。また、理解が不十分な点や誤りについては添削して返却、補足説明を行った。

授業科目名【 相談援助演習Ⅱ 】 事例学習やロールプレイを通して、困難を抱えた状況にある人をできる限り具体的にイメージし、どうかかわっていくかを実践的に学ぶことに重点をおいた。援助関係形成のためのコミュニケーション技法を実際に用いると同時に、ことばの背後にある専門職としての価値観や倫理観を養うこと、各専門科目の授業で得た知識が見立ての際にいかにより用いられるのかを実践的に学ぶことに重点を置き、多様な支援事例を用いて、ロールプレイング、解説、グループディスカッションにより授業をすすめた。
授業科目名【 相談援助実習指導Ⅱ 】 実習前の事前学習、実習後の振り返りでは個別指導を各学生につき複数回行い、各自の課題を明確にするよう心掛けた。特に、実習後の振り返りでは、実習期間中に経験したこと、感じたこと、学んだことについて学生自身が語ることを促し、個別指導やグループディスカッションを活用して語りをさらに引き出すこと、学びを深めること、自己の課題に結びつけることに重点をおいた。前期実習の終了から後期実習開始までの期間に学生が取り組んだ内容、成長した部分などを実習先の実習指導者と共有することによって、実習指導者よりさらに細やかな指導やサポートをいただき、全員が達成感とともに無事実習を終了することにつながった。
授業科目名【 相談援助実習指導Ⅰ 】 子どもの発達や特性について理論系科目で学んできたことを復習し、子どもの状態を適切な用語を用いて説明できることに重点をおいた。また、見学実習においては、学生が実際に子どもたちとの関わりを体験し、知識理解を深めるきっかけとなること、自己の克服すべき課題に気づき、実習に向けて事前準備に取り組むことをねらいとした。
授業科目名【 基礎実習 】 本科目は福祉の1年次に対人援助の現場で体験型の実習を行い、対人援助の仕事と利用者に対する理解を深めると同時に、福祉への学びの意欲を高めようとするものである。実習前には対人援助職に求められる基本的な姿勢について学び、実習への動機が高まるようグループ学習と個別指導を実施した。また、自己学習により実習先の理解を深めさせ、実習への準備性を高めた。実習後には、個別面接や実習報告会を行い、実習体験から得た学びや気づきの深化を図った。
授業科目名【 保育実習指導Ⅰ 】 本科目は3年次8月の保育所実習、3年次2～3月の施設実習の実習前・実習後指導に当たる科目である。保育の現場において実習生として保育技術を実践できるよう、毎回の授業の中で保育技術を実践的に学ぶことを取り入れた。実習目標の設定や実習計画書の作成、実習記録の書き方の指導においては保育士としての専門性を学ぶということを意識させ、特に施設実習においては社会福祉士としての視点と保育士としての視点が学生の中でも混在する部分を整理して、“社会福祉士としての視点をもちつつ保育士としての専門性を学ぶこと”について学生が理解して実習に臨めるよう実習前指導を行った。実習後は振り返りと実習報告に関する個別指導に重点をおいた。
授業科目名【 保育実習指導Ⅲ 】 本科目は3年次8月の保育所実習、3年次2～3月の施設実習を踏まえ、児童福祉施設における保育実習を希望する学生が履修する科目である。これまでの保育実習、相談援助実習において学んできたことと自身の課題をふまえつつ、実習目標を設定し実習計画書の作成するよう個別指導を強化した。また、福祉専門科目において学んできたことを総合して、実習先での支援の実際、現場の課題、利用者理解を深め、実習に臨めるよう事前学習にも重点をおいた。実習期間中の巡回指導や実習後の振り返りに対して各学生の学びや課題を整理し、実習のまとめと実習報告につなげた。
授業科目名【 保育の表現技術Ⅰ 】 学生の入学までのピアノの習熟レベルに応じて課題を設定し、各自、個人練習を効率的に行えるよう練習計画を立てて授業に臨むよう指導した。今年度はピアノを弾いた経験のない学生・楽譜を読めない学生が多くいたため、指の動かし方や音感などピアノを演奏するうえで大切となる感覚を養うことと同時に、楽典を理解しつつ、演奏するうえで楽典の知識がどのように役立つかを学生自身が実感できることを意識して指導を行った。“弾けるようになりたい曲”を目標に設定することで、学生一人ひとりが練習に意欲的に取り組むことができ、すべての学生が目標を達成することができた。

授業科目名【 家庭支援論 】

現代の家族をとりまく状況を概観し、子ども家庭福祉領域で家族を支援することの意義と家族の様々なかたち、家族をめぐる価値観の多様性にも触れつつ、家族を理解するための概念と家族をシステムとして捉える理論をふまえ、家庭支援に求められる援助者の多角的な視点を学生が理解できるよう努めた。本科目は知識習得にとどまらず、学生自身が知的好奇心を働かせて学びを深める意欲へとつながれば、卒業後も実践者としてさらに学びを進化させることにつながるものと考えている。例年と比較すると、提出されたレポートの内容はよくまとめられたものが多かったが、「何を、どのように」調べ、考察し、レポートにまとめるのかを、評価の観点として学生に提示したことによる効果も加わったものと考えている。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本社会福祉学会 日本キリスト教社会福祉学会 日本ブリーフサイコセラピー学会 日本家族研究・家族療法学会 日本小児保健学会 日本特殊教育学会 日本保育学会 日本医療保育学会		1992年10月～ 現在に至る 2001年3月～ 1991年11月～ 1998年11月～ 1997年5月～ 1999年8月～ 2011年10月～ 2016年5月～

2 0 1 8 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（１） 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（２） 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等
社会福祉法人 喜久茂会	評議員	2017年4月1日～2021年6月

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
学生委員 キャンパスハラスメント相談員 吹奏楽部顧問